

<p style="text-align: center;">かわら版</p> <p style="text-align: center;">(新春号 NO 6) 2014/01/01 発行</p> <p style="text-align: center;">年二回発行(1・7月)</p>	<p>下関市立大学落語研究会 OB 会発行</p> <p>電子版の扱いですので購読のためにはメールアドレスが必要となります。</p> <p style="text-align: center;">編集長 西川 隆喜</p> <p>※大学同窓会 HP でもご覧になれます。</p>
<p>軀に行き祝杯あげるその日まで</p> <p>命つなげよ我が友がらよ (NO6187)</p> <p><直訳> 今年4月に予定されている福山でのOB会で再会できるその日まで、私の友人たち、どうか元気でいてください。※「軀の浦」と「ともに」は掛け言葉として使っています</p>	

【2014 年元旦 謹賀新年】

皆様 明けましておめでとうございます。昨年は大変ご心配をお掛けし申し訳ありませんでした。楽狂に引き続きまして、私、笑司までが悪性リンパ腫になってしまい、4年生は次は誰なのか・・・戦々恐々としていると風の便りに聞きました。しかし今の日本は2人に1人が将来癌になると先日新聞で読みました。チョット驚きましたが死亡原因も第1位になっていますし、そういえば最近身近な人が結構癌になっており、領けなくもありません。正直、私もまさか自分がとっていました、でも突然腫瘍が出来ていますよ言われビックリしました。これはいくら用心しても無理なので、なる時にはなると気楽にしていたほうがよいよー。幸いなんとか治療はできそうなので頑張っ直します。

病院にいと退屈で昔のことを随分と思ひ出します、先ごろ何故か笑仲が1年の時、2人で江戸・上方寄席見物に行った時のことが思い出されました。昔の笑仲は今と違ってチョンボの笑仲と呼ばれていました、寝台列車に広島から乗車したのですが、乗ってすぐに前の寝台のおじさんに缶コーヒをかけてしまい平謝りに謝りました、内心「何をするんや!、コイツはアホカ!」とその時は前途の多難を思ったものです。

東京に着き友達の下宿に泊めてもらい、朝の開演から夜の終焉まで必死で新宿末広亭で延々とひたすら落語を聞いていました。我々は落研ですから楽しんでいましたが、一緒に行った友達は呆れていました。

2日ほど東京に滞在したあと大阪へ足を運び、難波花月を堪能し、夜は泉佐野の可ん笑(一時、落研部員)の家に泊まり五右衛門風呂に懐かしく入れてもらいました。あっそうだ! 夕方、某落研の人と天王寺で合流して、彼は一緒に来た彼女と共に天王寺のホテル街に姿を

行ったんやった。

その後は心配した笑仲のチョンゴもなく無事帰着することが出来ました。あっそうかあのことがあったから彼は、お詫びのつもりで UCC に入ったのか。納得。そうは言うても彼の頑張りはすごくどんどん出世して頭角を現し現在は塾のオーナーとして大活躍をしている。このことは彼の名誉のためにあえて記しておくことにする。

そのほか萩の合宿や湯布院の青年の家での合宿、もう卒業しているのにこのこと顔をだした下関の青年の家・九落連の下関寄席の打ち上げの長門荘等、本当に落研はおもしろかったなー、また、皆んなええやつばかりで社会に出てもよお頑張っているし、やっぱり馬鹿じゃ落語は分からないと言うことか。

最後に皆様とご家族のご多幸とご健康を心より願っております。本年も良い年でありますように……

(おまけ)

今年はカープが日本一じゃー ヤクルトはどべじゃー 昔、落書き帳で笑仲と晋平が毎日のようにやりあっていました、ちなみにその頃は両方ともどべ争いをしていました。でも平成 26 年の日本一は広島カープじゃー 飲みんさい食いんさい わしゃー広島じゃけーの一

そういえば、わしゃー昭和 26 年生まれじゃった、すごいな平成 26 年を迎えてしもうた。初日の出を見れなかった人は西に向かって拝んでください、私の初日の出はいつも輝いています(頭に毛がないということかな?)。晋平は東です(晋平さんは福岡にいるので下関の笑司さんは東方向になるという意味)。

あばら家 笑司(沖井 孝志) 昭和 49 年卒



[左から細井(S49 卒)沖井 (S49 卒)]



[左から編集長西川(S52 卒) 見知らぬ入院患者?]



[左から千葉(S53 卒) メリーさんの羊? 青山(S52 卒): 下関厚生病院病室にて]

【奥様の恵子さんから届けられた写真に添えられていたメッセージ】

紅葉がちらほらと見られるようになりましたね。お元気のご様子で何よりです。写真が遅れてすみません。すっかり忘れていました。本人は副作用がかなりきついです。
`ありし日の二人`などのタイトルがつかぬ様お願いします。本人の希望により墓標には「沖井孝志」ではなく「あばら家 笑司」と入れるようになっております。

「明日は我が身」と申します。落研OBの皆さんも明日があるとは思わずご自愛くださいませ。遅くなったことお許してください。

笑司内

【こっそり東京落研コンパの報告】

昨年、12月9(月)に在京の大塚・青山両氏と上京中の森長氏の三人が「罵声」の飲み屋で酒盛りを開いた旨の報告と写真が届きましたのでお伝えいたします。

編集長へ

金艶・笑仲両氏について「懇親会」の会話の中で強く感じたこと等、私、青山が簡単に報告させていただきます。

1. 金艶さん

*会社の上場廃止に伴う後始末の話を聞きましたが、さすがにすごい、だてに社長やってないなと感心しました。詳細は、ご本人から聞いてください。

2. 笑仲さん

*学習塾の経営をはじめ、18年が過ぎたとか。しかし、どう考えても、勉強を教える仕事をやっていることが不思議です。相変わらず、下半身は、昔のままでした。

3. 来年の落研同窓会

笑司さんの回復を待つ、福山で開催しては、という意見が金艶さんからありました。楽狂さんと調整のしてもらっています。

取り急ぎ報告まで・・・

あばら家好志（青山 剛三）昭和52年卒



[左から大塚(S49卒) 青山(S52卒) 森長(S51卒) 東京よりペテン師三人組!]

【晋平氏、福岡で発見される!!】

昨年10月下旬、福岡に所用があつたので、この時とばかり晋平さんに連絡し、やっとの思いで西鉄天神から電車で15分ほど行った下大利(しもおり)駅で再会を果たすことができました。彼は現在、下大利のダイエーに勤務しており60歳でラインは外れたので少し時間の余裕はあるらしい。奥さん、娘さん、息子さんと本人の4人家族で暮らしているそうです。安くてうまい回転寿司を二人で腹いっぱい食べてお別れしました。その時の写真と、後日、届いた手紙をご紹介します。学生時代、私と晋平さんは市大落研の渉外として九州大学六本松の教養部に会議のため毎月通っていた。お互い下宿生活をしていたので経済的には恵まれている方ではなかったが、その時だけは奮発して、お昼前に博多駅に着くと決まって博多口にあった「ナイル」というカレー専門店で、カレーライスを食べることが当時の最

高の贅沢であり楽しみであった。

前略

先日はお疲れ様でした。38年ぶりに再会しお互い年を取ったなあ〜随分腹が出てきましたなあ〜学生時代に戻った感じで大変楽しい時間を過ごしました。

ところで話は変わりますが近況をお話します。今年で60歳、人生の折り返しを過ぎ残り？年です。子ども達も下の長男が就職したのでほっとしています。仕事も後5年で退職ですので、その後の生活を考えると不安もありますがポジティブに家内と二人でやっていこうと思っています。次回のOB会には是非参加したいと思いますので西川さん頼みますよ！落研OB・OGの皆さんに再会できることを楽しみにしています。乱筆乱文にて失礼いたします。

草々

春好亭 晋平(松尾 晋)昭和51年卒



[左から編集長西川(S52 卒) 松尾(S51 卒) : 行きつけの回転寿司にて]

【かけ橋】

『こっそり東京コンパ』の席上、酒の勢いか？「桜の散る頃」福山でOB会をしようという話で盛り上がり、その後、楽狂・笑司氏も体調を整えて参加してくれるらしいとの情報を伝え聞くに至りました。よって、今回は青山氏をチームリーダー、私、西川がサポートし「福山でOB会」を開くことにしました。こまかなお願い等はこちらから個別にお願いし

ますので宜しくご協力ください。とりあえずぎつくりの話で恐縮ですが「かわら版」紙面をお借りしてOB・OGの皆さまへのお知らせとさせていただきます。正式なご案内は後日となります。皆さんふるってご参加ください。

(編集局)

【編集後記】

久留米市・うきは市の小学校の子どもたち・地域の人達に「オーケストラの演奏」を届けることを始めて4年が過ぎた。もちろん費用は私が負担するが、身の丈に合ったレベルなので特に負担感はない。唯、毎年苦勞するのがA4で2枚ほどにまとめ、演奏前に先生から児童に伝えてもらう「子どもたちへのメッセージ」の原稿を作ることである。今年の演奏校の久留米市立荘島小学校を例にとれば、日本の近代教育が明治5年の太政官布告により開始された同じ年に創立された筑後地域では最も歴史のある学校であることや、画家の青木繁さんやブリジストンタイヤ創業者の石橋正二郎さんなど多くの傑出した人物を世に送り出した学校であることなど、その学校の歴史や特別な活動を探しまとめるのに骨が折れる。

そして、演奏を通して感じた学校や先生・児童や保護者・地域の人達のことを楽団員にアンケート調査として出してもらい、寸評を加えたものを学校にフィードバックする。また、オーケストラ演奏による「校歌」の音源を学校にプレゼントし、学校にはHPにアップしてもらいようをお願いしている。

さて、この活動の最大にして最高の「狙い」はオーケストラの演奏で児童・保護者・地域の人達に「校歌」を歌ってもらうことにある。理由はこの地域では児童と家族や地域の人たちの多くが同じ学校の卒業生であり、「校歌」を通し世代を越えて「何かしらの共有できる哲学」を感じ取ってもらいたいと考えているからである。中でも平成24年に「うきは市立江南小学校」で開いた演奏会は記憶に残る最たるものであった。この学校の「校歌」は江戸時代に筑後川四大井堰(いせき)の一つである大石堰・長野水道を開鑿した五庄屋と村人の苦難の物語を題材に「郡の歌」として、明治時代に「鉄道唱歌」等を作詞した大和田建樹により作詞され歌われていた。戦後、全国の小学校で一斉に「校歌」が制定された時、校区の人達の間でも「戦前の歌詞を校歌にするのは疑問だ!」等、賛否両論がなされたそうです。しかし、豊かな筑後平野の恵みを後世の人々にも与え続ける五庄屋の偉業は如何ともしがたく、「郡歌」の一部を切り・取り・合わせ8番からなる「校歌」として制定された。民主化教育一色の当時としては「奇跡」としか言いようのないことであった。

さて、「校歌」がオーケストラの演奏で体育館に流れると、児童はもちろん自然と、保護者、地域の人達の中に歌声が広まり最後は大合唱となっていたそうです。そして、その光景をつぶさに見ておられた先生方も感動して涙を流した……とのお礼状を頂戴した時、私は無償の喜びを感じました。また、「井堰」を調べるうちに、坂本紘二(前市大学長)さんが「筑後川の水利用技術・水文化」に深く関わっておられることも知り得た。

最後に七五調の文語体で八番まで続く、小学校の「校歌」としては日本で一番長く、尊
い「うきは市立江南小学校校歌」の歌詞を皆様にお伝えし今年最初の編集後記とさせてい
ただく。

『うきは市立江南小学校校歌』

作詞 大和田 建樹 作曲 田村 虎蔵

- 一 寛文初年の頃とかや いでこの民を救わんと
慨然死をもって誓いたる この地に五人の庄屋あり
- 二 夏梅、清宗、菅、高田、及び今竹五か村の
庄屋はここに差し出す 水道工事の請願書
- 三 水もし引くに来たらずば 皆一同にはりつけの
刑罰その身に受くべしと 壮なるかなこの事や
- 四 至誠は人を動かして 許しの下る村口に
早たてらるる仕置台 見るに励まぬ人ぞなき
- 五 矢よりもはやき筑後川 さかまく波とたたかいて
岩切りうがち水をせく その辛その苦そもいかに
- 六 百難万艱排し得て 開きし長野と大石の
井堰に命を救わるる 田の面は二千百余町
- 七 千古の偉業功成りて 下りし賞与の数々も
五人は辞して皆受けず 誰かは高義に泣かざらん
- 八 尊き歴史は我が村の 無窮の誉れ散らぬ花
御霊は永く祀られて 守るか民の幸いを

(編集長)

